

成果指標				
成果指標	参加人数			
指標設定の考え方	介護教室への参加人数の増加が高齢者を在宅介護している家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ることに繋がるとともに、要介護者等の在宅福祉の向上を図ることができる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	400人	450人	450人	0
実 績	241人	308人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	介護教室への参加により、介護者である家族等の身体的・精神的負担の軽減が図られており、要介護者等の在宅での生活の向上につながっている。今後も、多くの方に参加してもらえるように継続して実施していきたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	要介護者を介護する家族等の身体的・精神的負担の軽減を図る目的で開催しており、ひいては要介護者等の在宅での生活の向上につながっている。今後も多くの介護者に参加してもらえよう、居宅介護支援事業所などを通して参加を呼びかけていきたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題